

楽しく、ときめく 授業を目指します！

～家庭でも、もっと勉強しましょう～

平成 23 年度に学力向上推進事業を立ち上げてから、本年度で 6 年目。

二戸市の学力は全体として良好です。この間の取り組みを通して、こういった成果が出ているか、

ことし 4 月に行った「岩手県中学校新入生学習状況調査」(以下「新入生学調」と略します) のうち、特に課題の大きかった「算数・数学」の結果をもとに紹介します。



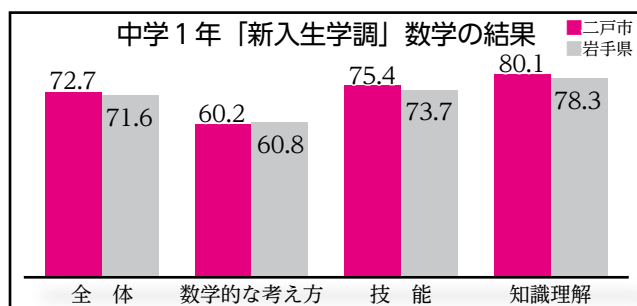
1 子どもたちの学力の状況は？

(1) 県平均と比べて

これまでもお伝えしてきたとおり、ここ数年、二戸市の子どもたちの学力の状況は「県平均を上回る」もしくは「県平均とほぼ同じ」レベルを維持しています。

この 4 月に新中学 1 年生を対象に実施した「新入生学習状況調査」でも同様の結果が出ています。

※「数学的な考え方」を問う問題で県平均を若干下回った以外は、県平均を全て上回っています



(2) 過去に受けたテストと比べて

県平均との比較だけでなく、過去に間違った問題を解けるようになってきているかどうかをみなければ、子どもたちに本当に力が付いているかどうかは分かりません。

①「数学的な考え方」を問う問題

そこで、小学6年生の4月に受けた「全国学力・学習状況調査」(以下「全国学調」)と、1年後の今年4月に実施した「新入学生調」の各問題で比べてみます。

<小6の4月に解いた問題>

せんざいを買います。家で使っているせんざいが、20%増量して売られていました。増量後のせんざいの量は480mlです。



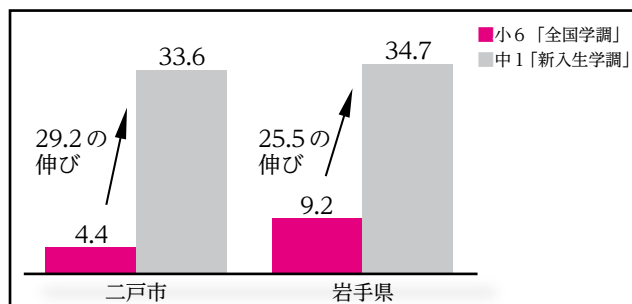
増量前のせんざいの量は何 ml ですか。 答え 400ml

<中1の4月に解いた問題>

20%増量して売られているジュースを買います。増量後のジュースの量は、360mlです。増量していない時のジュースの量は何 ml ですか。 答え 300ml

子どもたちがわずかながら県平均を下回った「数学的な考え方」。この「数学的な考え方」に関する問題は、きちんと解けるようになっていのでしょうか。

それぞれの正答率は下の表のとおりです。



※同じ子どもの小6時と中1時の結果を比較したグラフです

このグラフからも分かるように、小学6年の4月には、県の半分しか正解者のいなかった今の中学1年生は1年後には県平均と同じくらいまでに改善しました。

「割合」に関する内容は、小学5年生で学びますが、6年生の算数には、この種の「割合」を扱う時間はありません。子どもたちの学ぶ姿勢と先生方の指導がよい結果をもたらしたと考えられます。

②「基礎的な内容」の問題

計算力や算数・数学に関わる知識といった、「基礎的な内容」に関わる問題についてはどうなっているのでしょうか。時間が経って忘れてしまったり、解けなくなってしまったりしてはいないのでしょうか。今度は計算問題で比較してみます。

<小6の4月に解いた問題>

(1) $28 + 72$ (2) $6.79 - 0.8$ (3) $\frac{5}{9} - \frac{1}{4}$ (4) $\frac{5}{6} \div 7$

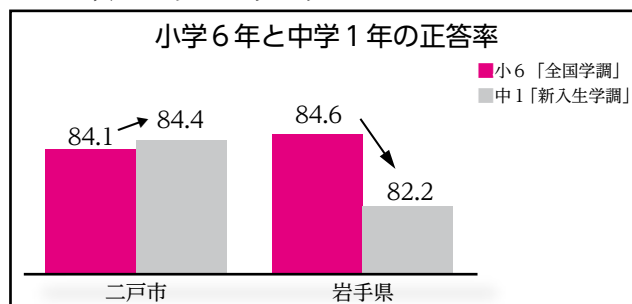
答え (1)100 (2)5.99 (3) $\frac{11}{36}$ (4) $\frac{5}{42}$

<中1の4月に解いた問題>

(1) $8 + 12 \times 5$ (2) $5.92 - 2.8$ (3) $2\frac{3}{4} - 1\frac{1}{6}$
(4) $\frac{9}{14} \div \frac{3}{4}$ (5) $2 \times \frac{3}{8} \div 0.9$

答え (1)68 (2)3.12 (3) $\frac{19}{12}$ (4) $\frac{6}{7}$ (5) $\frac{5}{6}$

中1の問題のほうが当然難しくなっています。問題の難易度は若干異なりますが、それぞれの正答率を比べると次のようになります。



※同じ子どもの小6時と中1時の結果を比較したグラフです

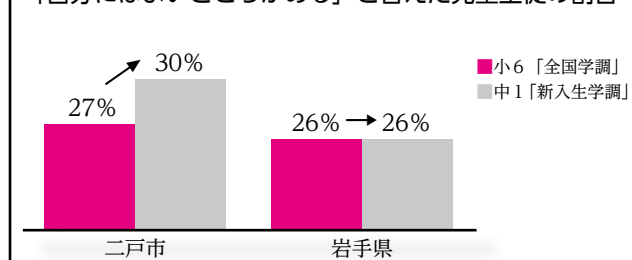
二戸の子どもたちは、学年が進み問題が難しくなっても、正答率が下がっていません。この結果を見る限り時間が経つと忘れてたり、できなくなったりすることはないとみられます。

(3) 意識にもよい変化

テストの結果だけでなく、子どもたちの意識にも良い変化が表れています。今年の4月に実施した意識調査と、彼らが小学校5年のときに受けた意識調査の結果を比較したところ、右の表のとおりになりました。

県内の中学1年生の意識には変化が見られない中、二戸の子どもたちは「自分にはよいところがある」と思っている子が増えています。周りの大人が、子どもたちのよい点を見つけ、それを積極的に褒め、自信をもたせてきた成果と考えられます。

「自分にはよいところがある」と答えた児童生徒の割合



※同じ子どもの小6時と中1時の結果を比較したグラフです

2 子どもたちの課題は？

テストの結果も意識も良好な状態が続いている二戸の子どもたち。課題はないのでしょうか。

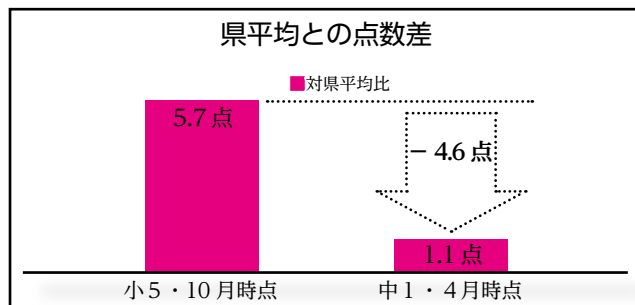
岩手県の結果と比較したところ、次のような課題が見えてきました。

- (1) 学年が進むと平均点が下がり県平均に近くなる
 - (2) 学年が進むと家庭学習時間が短くなっている
 - (3) 自分で計画を立てて勉強する子の割合が低い
- この3つについて、詳しく見てみましょう。

(1) 学年が進むと平均点が下がり県平均に近くなる

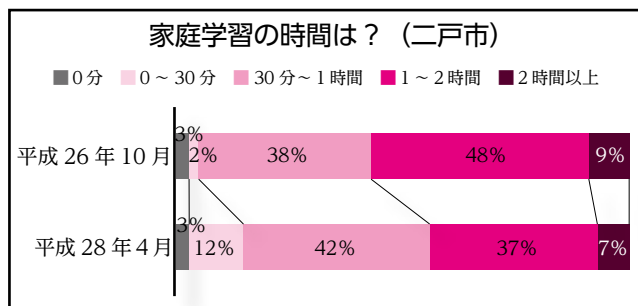
市内の子どもたちの算数・数学の結果は、「県平均を上回る」もしくは「県平均とほぼ同じ」レベルにあります。では、県平均との差はどれくらいなのか。学年が進むとその差に変化はあるのか。この点をまとめたものが次のグラフです。

このグラフからも分かるように、学年が進んでも県平均を上回ってはいますが、その差は縮小する傾向にあります。

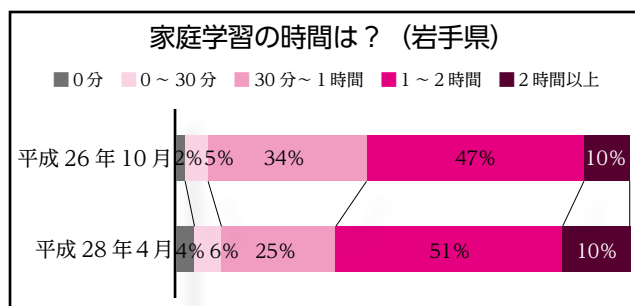


(2) 学年が進むと家庭学習時間が減少

県と二戸市との調査結果に差があったものの一つに「家庭学習時間」があります。

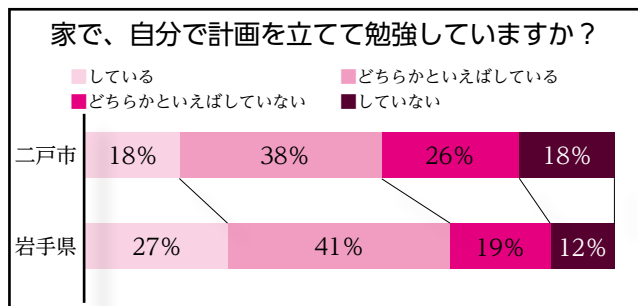


県は学年が進むにつれ家庭学習の時間が増えるのに対して、二戸市の子どもたちは逆に短くなっていることが分かります。



(3) 計画を立てて勉強する子の割合低い

県の結果と差があったものに「自分で計画を立てて勉強する」もありました。



(4) 3つの課題の関連性は？

県との比較で見えてきた3つの課題から、次のような仮説を立てることができそうです。

二戸の子どもたちは、自分で計画を立てて学習する習慣付けが弱いので、学年が進むにつれ家庭学習時間が短くなる。その結果、学年が進んでも算数数学の結果は県平均を上回っているが、その差は縮小する傾向にある。

「自分で計画を立てて学習する」とは、どのようなことをすることなのでしょう。どうすれば習慣化できるのでしょうか。

(5) 課題を克服するために

二戸市教育振興運動協議会では、小学校入学時に「家庭教育の手引き」を配付しています。この手引きには、どのような学習習慣をつければいいのか、どのような学習をしていけばいいのかを学年ごとに具体的に記述されています。その中に、小学1年から中学3年全ての学年に共通して記述されているものがあります。それは、「家庭学習をする時刻、時間をしっかり決めて取り組ませましょう」です。

大人は子どもに「1日に何分勉強しているか」はよく聞きますが、「何時に勉強を始めているか」を聞くことはほとんどありません。そのためか、子どもたち

も学習時間をより意識しているように思われます。

しかし、「計画を立てて学習する」ようになるためには、学習時間を決めて取り組むことも大切ですが、「何時になったら始めるか」を決めることがより重要です。まずは、「何時になったら家庭学習を始めるかを決め、その時刻になったら学習に取り組む」ことから始めていきましょう。

なお、「家庭学習の手引き」は、二戸市教育委員会のホームページ(<http://edu.city.ninohe.iwate.jp/>)でも見るができます。

